

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2376300238		
法人名	有限会社 ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム設楽の家 1号館		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町清崎字釜淵13-2		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	平成26年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所(株)		
所在地	愛知県名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年11月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日常生活の中で、本人の思いや希望をあらわしたり、自己決定ができるよう配慮した声かけをし、コミュニケーションを多くとるようにしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年10周年ということもあり第1回目の家族会を開催し、多くの家族の参加があった。家族会をするにあたり「家族会実行委員会」を作り、家族にアンケートをとったりして職員が一致団結して取り組むことが出来た。今年の「目標計画」の中に食事の工夫についてあげていたので、鍋の日やバイキングの日を作り、目先が変わって少しでも利用者が楽しんで食事ができるよう工夫している。また、誕生日会には、ユニットの全員で外食に行くことも実行できた。地域との交流も今まで通り行なわれ、近所の陶芸教室で作った作品を町の文化祭に出品することもできた。毎日、3ユニット全員が1つのユニットに集まり、体操を行ない機能維持のために努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ひとりひとりが事業所の理念である「ひとりひとりが主人公 思いやり・助け合いを大切に笑い声の絶えないホームに」を利用者と向き合い実践しています。	利用者と職員が助け合い、笑い声のあるホームにしたいとの思いから今年より理念を変えている。その他に各館の理念があり、職員は常に意識しながら日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方たちの慰問等で交流している。	ホームの盆踊りに地域の人に来てもらったり、小学校より新茶をもらい、子供たちと交流会をして楽しいひと時を過ごした。12月には地元のおやじバンドのボランティアが来訪の予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談、面会に訪れた方々に、認知症の方の対応方法を伝授している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、運営状況等の報告を実施し、意見を聞いている。会議で話し合った内容等を運営に活かし、サービス向上に努力している。	運営推進会議では、行事報告や運営状況等の報告をし、意見交換をしている。出席者より参考になる意見を貰い、職員と共有し運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は役場、居宅介護支援事業所を訪問したり、情報交換したりして、ケアサービスの取り組みを伝え、協力を得ている。	日頃から役場職員はホームのことを気に掛けていて、何かあったらすぐに連絡を下さいと言ってもらっている。設楽保健福祉センターからの要望でグループホームでの体験談を発表したりして連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学び、防止に努めている。職員が3人体制の時には、できる限り、外気浴、散歩を心がけている。玄関施錠の日誌をつけ、施錠時間を短くしたりなくすよう努めている。	職員は年1回法人内研修で、身体拘束について学んでいる。職員が一人の時には施錠することもあるが、どのようにしたら施錠しなくても良いかの話し合いをしている。スピーチロックについても職員会議で議題に上げて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や本部研修で学び、防止に向け話し合いの場を持つようになっている。特に、スピーチロックには注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、必要に応じて、活用できるよう関係者と連絡を取り合い、アドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主にに関わり、理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や嗜好アンケート等を実施し、運営に反映させている。	今年第1回目の家族会を行ない80人程の参加があり食事会、笑いのヨガ、ビンゴゲームなどして楽しんだ。来訪時や介護計画作成時や運営推進会議の折に意見を聞くよう心がけている。	家族より消灯時間の見直しについての意見があったため、職員間で話し合いの場を持たれる事を望む。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開き、管理者や地域責任者と意見交換をしている。	家族会を開催するにあたり、「家族会実行委員会」を作り、職員間でアンケートを取り協力して開催に望んだ。毎月の会議でも職員は意見を発言しやすい場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等の支援をし、各自、やりがいを持って働けるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、毎月1回、内部研修に取り組んでいる。また、管理者は、町主催の研修への受講を積極的に推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の研修時に同業者と交流をはかっている。本部研修(D課程・K課程研修)を行い、サービスの質を向上させる為の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の訴えに耳を傾け(傾聴)、また、コミュニケーションを多くとり、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来所時等、困っている事や要望等、遠慮なく話せるような雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者がどのようにしたら、その人らしく生活ができるか考え対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で、個々のできる事、好きな事を把握し、共に行う事でコミュニケーションをとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者個々の家族様にお便りを職員が書き、どんな様子で毎日過ごしているか、また、お願い事等をお知らせし、関係を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や隣近所の方の面会等を推奨している。また、ご家族様の協力を得て、外出の機会を作っている。	友人や親戚の人が会いに来たり、地域のお店から食材を届けてもらったときに顔見知りの利用者と話すこともある。家族の協力の下、外出や外食を行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日1回、全館で集まり、体操やレクリエーションで利用者同士が関わり合えるような時間をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族等が気軽に相談できるような関係作りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や表情から、思いを把握し、支援につながるよう努めている。	入浴時や洗濯物を干す時など1対1になる時にさり気なく聞くようにしている。また、家族から情報を貰ったり、日常の行動や表情で察して思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報等で把握したり、本人からも聞く機会を設け、職員間で共有し支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りファイル等で情報を共有している。カンファレンスで話し合った内容を、会議に出席していない職員が把握できるようノートを作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、実現に向けた介護計画となるよう、意見を出し合い作成している。	3ヶ月毎にモニタリングを行っている。介護計画は日頃の介護記録を参考にして、本人、家族、職員と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。状態変化が見られる場合は、家族と相談して見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りファイルや介護記録に個別に記入し、情報の共有を図っている。また、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の慰問を受け、歌や踊り等を楽しんでいる。地域の商店から食材を調達し、配達時に交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り、家族の希望に沿った病院での受診を支援している。かかりつけ医が遠方の場合、家族の了解を得、協力医で受診させていただいている。	利用前からのかかりつけ医を希望している利用者は、家族が通院の付き添いをしたり、薬を取りに行っている。ホームの看護師や管理者が利用者の状態を把握しており、かかりつけ医や協力医に情報を提供して連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に状態を告げ、アドバイスをいただいている。また、週1回、本部より看護師が出勤時に、相談しアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため、主治医や家族等と話し合う機会を持ち、早期退院につながるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要となると、当ホームでは対応が難しいが、家族・主治医と相談し、その人に合った支援を行っている。	利用時に家族にホームの方針を伝えているが、今年は家族の要望で、ホームで看取りを経験している。利用者が重度化になった場合は医師が入院の時期を家族と相談して決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを基に対応している。職員個々で、町や消防等の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上避難訓練を実施し、消防署員の指導や協力を得ている。	6月に夜間想定した避難訓練を行っている。その時に通報訓練や水消火器の初期消火訓練も行っている。備蓄品(水、米)なども用意してある。	年2回の避難訓練を実施しているが、利用者の状態を踏まえて、いざという時にスムーズに誘導できるように、年数回の避難訓練を検討されることを望んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや接する態度に気をつけて対応している。利用者や家族の情報は守秘義務を守っている。	利用者の人格を尊重してその人に合った言葉かけをしており、居室に入る時など声をかけてから入室するなど、プライバシーにも配慮している。書類面は事務所に保管して個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、本人が思いや希望を表わしやすくなるようコミュニケーションを多くとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、その中で無理のない、一人ひとりのペースを大切にしながら暮らすように、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、床屋さんが来て下さるので、好みの長さに切ってもらっている。起床時や入浴後、声かけをし、服を一緒に選んでもらえるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じ、食事の盛り付けや片付け、野菜の皮むき等お手伝いしていただいている。	利用者と日々の会話の中から献立を決めている。地域の店から弁当を取ったり、焼きたてのパンバイキング、鍋料理など楽しく食事が出来るように工夫している。日曜日は利用者と職員でサツマイモチップなどのおやつ作りも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に、水分や栄養が確保されているか把握できるよう、介護記録に記入している。スポーツドリンクを常備したり、状態に応じてミルサーを使用し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ支援している。就寝前は義歯の洗浄、消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らって排泄の声かけ等を行い、自立に向けた支援をしている。	利用者のそわそわしている様子から察したり、排泄チェック表を参考にして、日中はトイレでの排泄をサポートしている。夜間は定期的に巡回しており、2回ぐらい確認してパット交換をしたり、トイレに誘導する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に体操・散歩等を行い、適度な運動や1日2回、ヨーグルトを提供するなどし、予防に取り組んでいる。排便チェック表をつけ、排便の管理を行い頑固な便秘は主治医と相談し薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、各自、入浴する曜日を決めているが、体調やその日の気分、入浴するタイミングに配慮しながら、入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は、毎日14時からとなっており、ユニット毎に3~4人の入浴となっている。入浴時間内で、利用者の希望する時間で入れるように配慮している。最初は入浴を拒む人も職員の声かけの工夫により入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を清潔にし、季節にあった寝具等使用するよう支援している。不安や心配ごとを傾聴して、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の一覧を作成し、誰がみてもわかるようにしている。定期的な受診を行い、体調にあった服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランを通じて努力している。利用者の気持ちに寄り添った声かけをし、役割、楽しみ事等自覚できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回の陶芸教室に参加している(一部の利用者)。天気の良い日には、散歩や外気浴ができるよう、声を掛け促している。家族の協力も得、外出の支援をしている。	毎日天気の良い日はホーム玄関前で体操をしている。近隣を散歩したり、ホームの畑に行くなど日常的に戸外に出ることは多い。年行事として花見、もみじ狩り、誕生日会などライブのついでに外食してくる時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かったお金は、本人が所持することで、トラブルもおこりやすい為、ホームで管理し、必要に応じ家族に連絡をし、使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を利用する事は、ほとんどないが、必要に応じて、手紙を書いたり、職員が間に入って連絡を取ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、明るくシンプルで動きやすくなるよう工夫している。トイレ・浴室等は、場所がわかりやすいよう工夫している。	ユニット毎にリビングには利用者の紹介や習字などの作品が飾ってある。リビングの窓から見える景色は山が見えて四季を感じることができる。リビング、トイレ、廊下、浴室など掃除が行き届き清潔で、居心地の良さが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓では坐り位置が決まっているが、ソファやベンチ等は自由である。適宜、坐り位置を示唆したりして、自然なくつろぎを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室なので、個人の好みで、ぬいぐるみを置いたり、家具を置いたりして居心地よくしている。	居室は仏壇、テレビ、家族の写真やホームでの誕生日に貰った寄せ書きなどが置いてある。居室でのんびりと寛いでいる人もいて、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力をいかした自立した生活が送れるよう、手摺りをつけたり、日課表を貼ったり、また、夜間センサーも安全に寄与している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2376300238
事業所名	グループホーム設楽の家

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	民生委員が奉仕活動の一環としてホームの草刈りを行なっている。また、デイサービスを使用している家族より入居相談や認知症の対応方法などについての電話が時々あり、丁寧に対応している。近隣の施設で行なわれている陶芸教室に毎月3名ほど参加し、出来上がった作品を町の文化祭に出品している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	出席者より保育園との交流を勧められたり、消防計画の見直しを勧められたりするなど協力体制が構築されている。出席者は民生委員、地域包括支援センター職員、役場町民課、家族などで2ヶ月ごとに年6回行なわれている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	設楽保健福祉センターからの要望でグループホームでの体験談を発表するなど協力関係は良好である。役場の職員には日頃から気にかけてもらっており、気軽に相談もできる関係である。町主催の研修には積極的に参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	各利用者の家族宛に手書きの手紙を発送して、日頃の様子や体調についてなどの報告をしている。今年は第1回目の家族会を職員が一致団結して開催し、たくさん家族の参加が得られている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示)
3. 運営推進会議を活かした取組み	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
	(例示)
4. 市町村との連携	① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示)
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。